

二人の盲人の癒やし

マタイによる福音書九章27〜38節

イエスが家に入ると、盲人たちがそばに寄って来たので、「私にできると信じるのか」と言われた。二人は、「はい、主よ」

と言った。(28)

二人の盲人が「私たちを憐れんでください」と叫びながら、イエスの後を付いて来ました。目の見えない人が誰かの後を付いて行くのは、どんなに大変なことでしょう。家の中にまで付いて来た二人に、主イエスは尋ねられました。「私にできると信じるのか」と。何という質問でしょう。できると信じているから付いて来たのではないのでしょうか。しかし、主イエスの目からご覧になれば、私たちの信仰は、本当に信じているかどうか疑いたくなるようなものなのかもしれません。主イエスに対する信仰がはっきりしないまま、漫然と「憐れんでください」と求めていることがあるのではないのでしょうか。その問いかけに信仰が呼び起こされるようにして、「主よ、信じます」(口語訳)と二人は答えました。主イエスは私たちに対して、そのような信仰を求めていくくださるのです。